

サドクマユリ

ユリ科

絶滅危惧Ⅰ類

Lilium medeoloides A. Gray var. *sadoinsulare* (Masam. et Satomi) Masam. et Satomi

国カテゴリー

該当なし

選定理由

本県産のクマユリ *L. medeoloides* には、白山高地区(亜高山帯)に分布するものと、能登半島の外浦区に隔離分布するものがある。前者は白山山系の地域的個体群として別に扱う。後者はいわゆるサドクマユリ *L. medeoloides* var. *sadoinsulae* に、形態や地理分布の点でよく似ている。しかしながら、現地(佐渡)での観察ではサドクマユリは、高地のクマユリと形態的に連続することから、現在は区別していない様である。能登半島の本変種は分布域の面積、個体数とも非常に少ない上に、園芸採取がおこなわれてきた経過があり、白山山系のクマユリと区別して絶滅危惧種に選定する。(現況:R-)

形態

クマユリの鱗茎を構成する鱗片葉には、関節がある。能登半島産のものでは、同じ鱗茎のなかの鱗片葉には、季節によって関節のあるものと無いものができるようである。草丈は30~100cm、輪生ないし偽輪生は1回または数回で、それを構成する葉は披針形、大きさは5~15cm、縁に小突起がある。

国内分布

北海道、本州、四国(稀)、九州(稀)。

県内分布

能登半島、外浦区。

生態など

相対的に明るい場所である林床、ギャップ、林縁、伐採跡などに生育。以前は草原にも生育していた。種子散布であるが、鱗片による栄養繁殖が大きな役割を果たしている。

生育環境

能登は夏緑林の林床・林縁に生育し、白山高地区のものが亜高山帯の高茎草原・林床に生育するのと対照的である。地元の庭先・屋敷林への移植が顕著。

危険要因

園芸採取、産地局限、自然遷移。

特記事項

前回は、本変種をクマユリとして取り扱った。



小野ふみゑ・2006年7月23日・能登

分布図はありません。